

〔大和本草〕二見入日七種菜  
ナツナ 薺 ハコヘ 繁蕪 セリ 芹 アラナ 菁 カクナ 御形 コキヤウ 須須之呂 ススシロ 佛座 ホトケザ

荆楚歲時記云、正月七日以七種菜爲羹、今按、歲時記無七種之名品、國俗人日ニ所用七種ト稱者、芹

薺鼠麴草一名佛耳草、倭名母子草、或以爲黃花 繁蕪 佛座一名田菘、蔓菁之類、和俗稱之曰菜、在水

島菜、於諸菘爲邪蒿者非也、二種正月未生苗、國稱京菜、蘿蔔也、此七種若菜ノ事、公事根源ニ見エタリ、菘ヲ菁トス、

〔拾芥抄〕下末十二種若菜

若菜 カサヒラヲハコワラヒ 菌 キノコ 菖 ワラヒ 蕨 ナツナ 薺 アフリ 葵 シハ 芝 ヨモギ 蓬 ヨロイカサ 水蓼 タテ 水雲 カウシ 菘 タカナ 芹 セリ

〔御觸書集覽〕天保十三寅年四月八日

野菜物等、季節いたらざる内、賣買致間敷旨、前々相觸候趣も有之處、近來初物を好ミ候儀增長いたし、殊更料理茶屋等ニ而ハ競合買求、高直之品調理致し候段、不埒之事ニ候、譬バ、きうり、茄子、いんげん、さ、げの類、其外もやし物と唱、雨障子を懸、芥ニ而仕立、或ハ室之内江、炭圍火を用、養ひ立、年中時候外れに賣出し候段、奢侈を導く基ニ而、賣出し候者共、不埒之至ニ候間、已來もやし初物と唱候野菜物類、決而作り出し申間敷旨、在々江も相觸候條、其旨を存じ堅賣買致間敷候、尤魚鳥之儀ハ、自然之漁獵ニ而賣出し候は格別、人力を費し、多分失脚を懸ケ飼こみ仕立置、世上江高價ニ賣出し候儀ハ、是亦不相成候、若相背候者有之においてハ、吟味之上、急度答可申付候、右之趣、町中江可觸知もの也、

四月

右之通、被仰出候段、從町御奉行所被仰渡候間、町中不洩様早々可相觸候、

寅四月八日

町年寄 役所

藥草 〔和漢三才圖會 九十二本〕藥品